

印象的だった英語でのケースプレゼンテーション

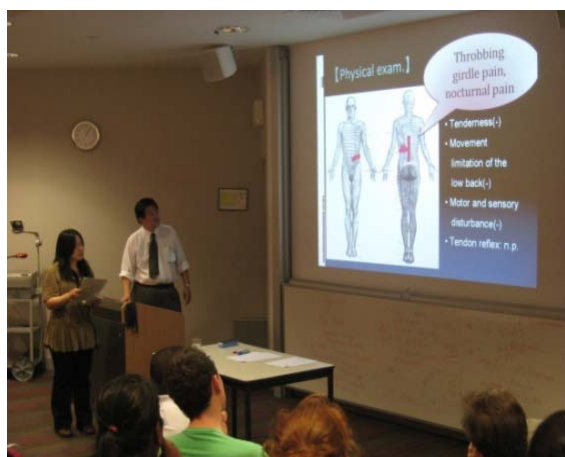
白田 佑子

今回の海外研修は、企画自体が手探り状態の第1回目ということで、参加者はもちろんのこと、ご尽力くださった関係各所の方々の大変な試行錯誤のおかげで、なんとか開催できたものと聞き及んでおります。しかし、実際の研修中に困難を生じることもほとんど無く、それどころか個人が素晴らしい体験をして、様々な刺激を受けて、健康に帰国することができました。

唯一、他大学からの参加者となった私にとりましては、出発前の福島県立医科大学での打ち合わせの際から、新しい出会いの連続でありました。研修2年目の最後の時期、高度救命救急センターのローテート中であり、なかなか各所との連絡もままならないような中で、皆様に多大なご迷惑をお掛けしつつのスタートとなってしまいました。航空券取得やホテルの手配等、福島県立医科大学研修医参加者の皆さんに手配していただくこととなり、一度もお会いしたことがない先生に、出発前から大変お世話になり、感謝しております。

出発前にも多くの出会いがあり、さらに海外でも多くの出会いを経験し、その度に同じ医療従事者として様々な触発を受けて研修を終えました。今後も出来る限り連絡を取り合い、交流を深めていきたいと考えております。

今回、私にとって最も印象的であった経験は、オーストラリアで、初めて英語でのケースプレゼンテーションを行う機会を得たことでした。スライドは旅行出発後の移動中に作成するという強行軍ではありましたが、特にノレット先生には、本当に直前までご指導頂き、無事やり遂げることができました。体験したことがないと、なかなか想像のつかない部分も多いものですが、今回1度経験できたことで、次回の構想をたてる際に、やはり各段に違うと思います。今後もそういった機会には積極的にプレゼンテーション等を行っていききたいと思います。



【プレゼンテーションの様子】

この海外研修は、来年度以降も、東北地方の大学病院研修医の間に広がり、浸透し、位置づけも明確となって内容も充実し、さらなる発展を遂げていくものと思います。なかなか各大学との連携連絡がスムーズにはいかない場合も多いと思いますが、是非来年度以降は、参加者、特に研修医は数か月前から集まり、何度も顔を合わせ、自分たちでいろいろと準備することで出発前に結束力も高めて、1つのチームとして海外研修へ向かって欲しいと思います。



【Singapore general hospital】



【Queensland Health Skills Development Centre】



【移動中にノレット先生よりプレゼンテーションのアドバイスをいただく】